

2020年度の市内の温室効果ガス排出量（速報値） 7年連続で減少（前年度比7.4%減）

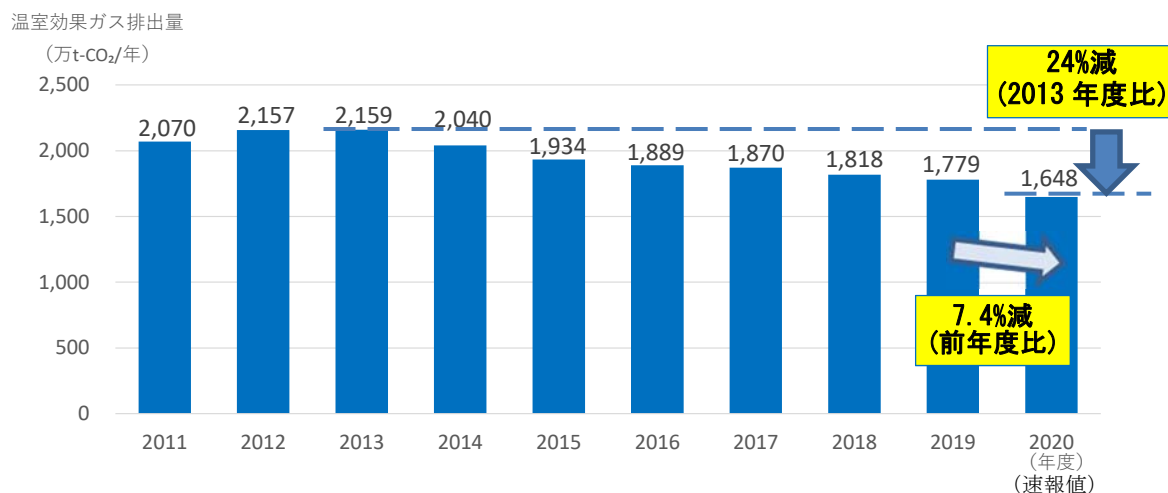
2020年度の横浜市域からの温室効果ガス排出量（速報値）は、前年度比で7.4%減の1,648万トン-CO₂となり、2013年度をピークに7年連続で減少しました。前年度からの減少要因としては、省エネの取組によるエネルギー消費量の減少や、電力の排出係数の改善などが挙げられます。また、温室効果ガス排出削減目標の基準年である2013年度比で24%の減少となり、「横浜市地球温暖化対策実行計画（平成30年10月改定）」で掲げた2020年度削減目標（2013年度比22%減）を達成しました。

Zero Carbon Yokohamaの実現に向けて、省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの導入拡大が必要であり、今後も引き続き、市民・事業者の皆様と連携し、温室効果ガスの削減を進めてまいります。

1 温室効果ガス排出量

(1) 横浜市域の温室効果ガス排出量

2020年度の横浜市域からの温室効果ガス排出量（速報値）は、前年度比で7.4%減の1,648万トン-CO₂となりました。電力の排出係数※の改善に伴って電力由来の二酸化炭素排出量が減少したほか、家庭部門を除く各部門でのエネルギー消費量の減少に伴って排出量が減少しました。また、温室効果ガス排出削減目標の基準年である2013年度比で24%の減少となります。



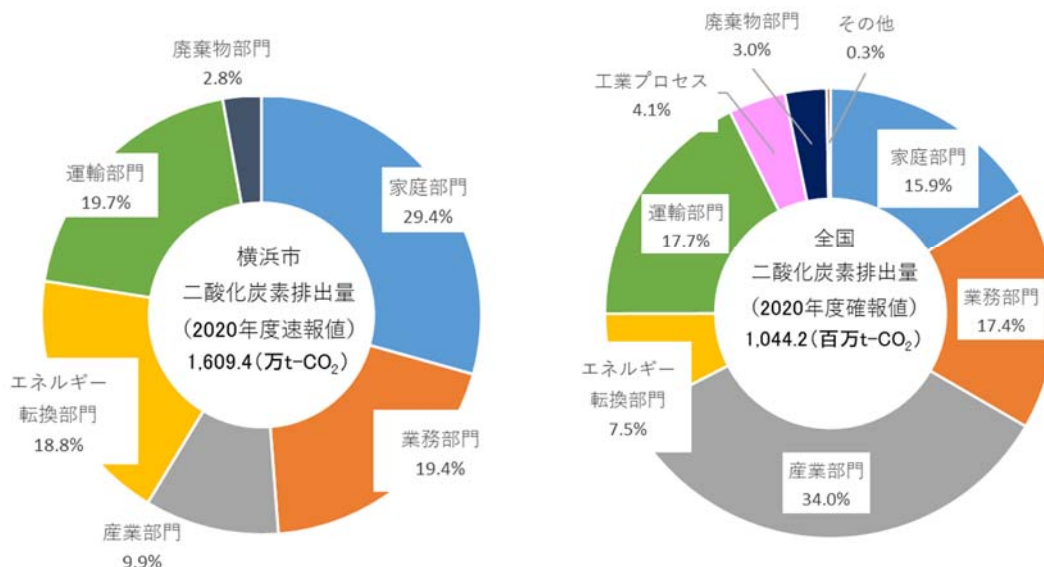
【横浜市域における温室効果ガス排出量の経年変化】

※＜参考＞ 排出係数とは、電気の発電の際に燃料の燃焼に伴って排出された二酸化炭素の量 (kg-CO₂) を供給した電力量(kWh)で除して算出したもので、下表のとおりです。

項目	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
東京電力エナジーパートナー(株)のCO ₂ 排出係数 (kg-CO ₂ /kWh)	0.464	0.525	0.531	0.505	0.500	0.486	0.475	0.468	0.457	0.447

(2) 部門別の二酸化炭素排出量

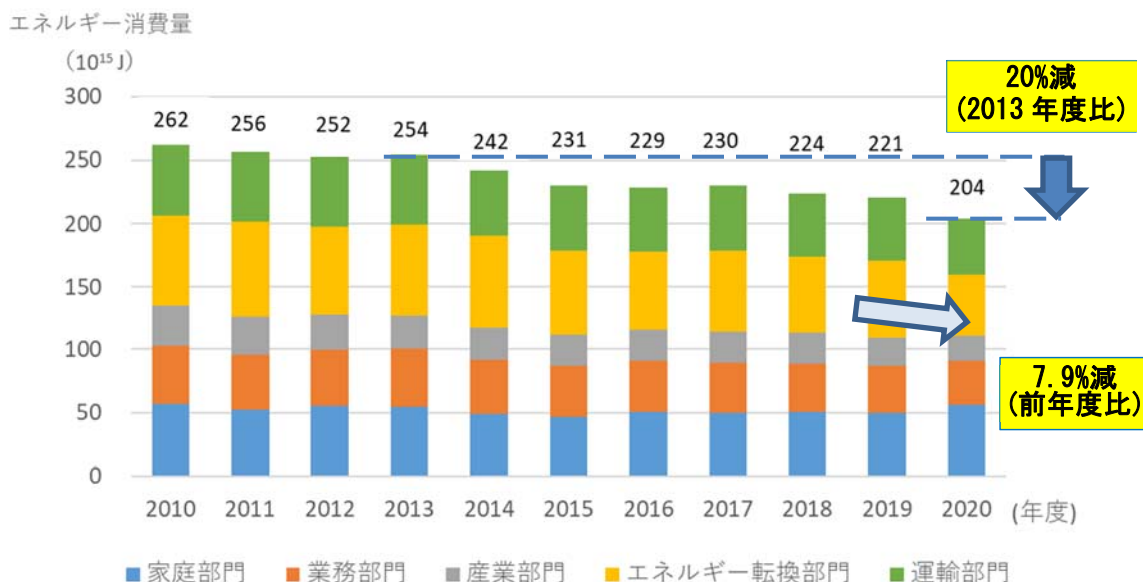
温室効果ガス排出量のうち、約 98%を占める二酸化炭素排出量の横浜市と全国の部門別内訳は次の円グラフのとおりです。全国と比較すると、本市は産業部門の占める割合が少ない一方で、家庭部門及びエネルギー転換部門の占める割合が大きくなっています。



【横浜市及び全国の部門別二酸化炭素排出量】

2 横浜市域のエネルギー消費量（電力+都市ガス+石油系+非石油系+熱 等）

2020年度（速報値）の市域におけるエネルギー消費量は、前年度と比較して7.9%減少、2013年度と比較して20%減少しました。特に、産業部門やエネルギー転換部門で前年度からの減少幅が大きくなった一方で、家庭部門のエネルギー消費量は増加しました。国と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響による増減が本市の各部門で見られます。家庭部門での増加の要因として、在宅時間の増加等が考えられ、産業部門での減少の要因として、経済活動の停滞等が考えられます。



【横浜市域におけるエネルギー消費量の経年変化】

詳細データ等は下記ウェブサイトをご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/ondanka/ghgemissions.html>

お問合せ先

温暖化対策統括本部調整課担当課長

東田 建治

Tel: 045-671-2336